

“モノ”がたりを発見するまち 倉敷、児島



●ジーンズのまち 児島の現在



1965年に国産ジーンズがはじめて児島で作られ、今年で50年余り。今日まで、縫製工場やジーンズの加工工場などが集積し、街一帯がジーンズ工場とも言える地域として発展してきました。しかし、「ジーンズ

のまち」と呼ばれるようになったのは、実は最近のこと。国産ジーンズの草創期から操業しているベティスミスを母体としたジーンズミュージアムが2003年にオープンし、2006年にジーンズバスの運行が開始、その後、児島味野商店街の一部をジーンズストリートと称し、児島のメーカーを中心にジーンズのショップが軒を連ねはじめたのが、2010年頃の話です。それでも、急速に全国からの注目を集め、現在も観光客が増加している背景はいったい何か。それは、高い品質のジーンズを作り出す技術への関心の高さはもちろんのこと、倉敷市が「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」というストーリーにまとめ、日本遺産にも認定されたことから分かるように、ヒト、モノ、技術、文化が一本の小説のようにつながる日本でも珍しい地域であるからです。海が畑になり、塩害に強い綿花の栽培をきっかけとして繊維産業がはじまり、真田紐になり、足袋になり、学生服になり、ジーンズになり、街を形成するというダイナミックな展開が、一つのストーリーになる。これが、倉敷、児島の最大の魅力だと考えます。

ただし、観光地として発展してきた倉敷美観地区周辺に比べ、児島という地域として見た時、技術や歴史は確かなものと言えますが、これをさらに楽しんでいただく工夫やホスピタリティは、まだまだ発展途上であると言わざるを得ません。ジーンズミュージアムへお越しただく団体のお客様のなかには、ジーンズを穿いた事が無いというご高齢の方も多くいらっしゃいますが、そういった方にも満足していただくにはどうするか。子供が退屈せず、家族みんなで楽しんでいただくにはどうしたらいいか。ジーンズミュージアムでは、お子様も楽しめるワークショップの開催、ワンちゃん連れでもストレスなくお越しただけるドッグランの整備、遠方からの団体のお客様がくつろげる休憩スペースの整備、多言語化への対応などを進め、年齢も性別も様々

なおお客様が満足していただける取り組みをはじめています。また、来ていただいた方に向けて、児島の技術の高さや文化を発信することも重要な役目であることから、縫製工場の隣にはショールームショップも新たにオープンし、商品を通してジーンズの愉しみを発信しています。観光地としては、まだまだ発展途上の児島という地域だからこそ、今後の努力次第で大きな可能性があると感じています。

●モノづくりからはじまるミュージアム

さて、博物館はまず収集すべきモノがあって、それを収蔵、展示する箱ができることで形成されてきたわけですが、ジーンズミュージアムは少し様子が違います。地元の小学生の工場見学の要望から、ジーンズの技術や歴史を学習できる施設を、ということで作られた企業の博物館です。さらに、ジーンズを買って帰りたいという要望からファクトリーアウトレットの営業を開始し、技術を体感していただくために体験工場ができました。いわゆる博物館と違って、そこに工場があることがスタートであったことが、面白い特徴となっています。工場があるということは、そこで働き、生活する人がいること、さらにその子供、家族がいること。これは、ユネスコの勧告にもある博物館における「地域との結びつき」を、自然に、無理なく実現できる可能性があると感じています。実際に、2002年からはじまった小学生の工場見学は今も続いており、普段から敷地内のガーデンでは、付近の福祉施設の方が休憩している姿も見られます。また、モノづくりからはじまった博物館ですので、ジーンズを買っていただいたり、体験していただいたりすることで、入館料を取らない仕組みを確立しています。欧州の博物館に多いドネーションとは違う方法ですが、これもまた、入館料に頼らない運営という意味では、面白い仕組みだと思います。



産業構造の転換期を迎え、教育のあり方も大きな変化の中にある今日ですが、私たちは、「ジーンズのまち」という特徴を活かした博物館運営と新たな試みを続けていくことで、モノづくりのすばらしさと生活に根差したジーンズ文化の発信に努めていきたいと考えています。  
(ジーンズミュージアム 学芸員 西田卓介)

編集後記

会報52号をお届けします。本協議会も80館を超える大所帯となりました。作品の収集や展覧会の開催にかぎらず、災害対策から地域連携まで美術館・博物館に期待される役割は多岐にわたります。そろそろ世代交代を迎える館もあり、若いスタッフの育成や引き継ぎも課題です。秋の研修会は「作品の取り扱い講習」を、来年1月には史料ネットの全国大会が岡山で開催されます。ともにスキルアップを目指して、協議会としても取り組んでいきたいと思

(事務局) 岡山県立美術館 福富 幸

岡山県博物館協議会会報

岡山の博物館

No.52 平成29年8月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 守安 収

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648

岡山の博物館

岡山県博物館協議会会報 No.52 平成29年8月

CONTENTS

- P1 ..... わが館のイチ押し 林原美術館
- P2 ..... 館長随想「倉敷考古館 新館長の夢想」  
(倉敷考古館 常務理事 館長 香川 俊樹)
- P3 ..... 平成28年度研修会  
「震災／災害と博物館施設 生の声を聞く」
- P4～P5 ... 平成29年度 総会報告／記念講演会
- P6～P7 ... 新規加盟館紹介
- P8 ..... 気になる情報コーナー  
(“モノ”がたりを発見するまち 倉敷、児島)

わが館のイチ押し 林原美術館「あの『ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン』に3件も掲載!!」

- ・二つ星 ★★：「洛中洛外図屏風」(重要文化財)
- ・一つ星 ★：「能装束」(重要文化財を含む)  
「林原美術館」(当館全体)

当館は、国宝3件、重要文化財26件、岡山県指定文化財8件、岡山市指定文化財1件を含む約9,000件にも及ぶ美術品を収蔵しており、岡山市に最初に開館した美術館でもあります。実業家でありながら、古美術を愛好し、高い鑑識眼を持つ故林原一郎氏が収集した古美術と、旧岡山藩主池田家から引き継いだ大名調度品を中心に、刀剣・甲冑・絵画・書跡・能装束・能面・蒔絵の工芸品など、幅広いカテゴリーに及んでいます。これら収蔵品による独自

の企画展、並びに特別展を含め年6回程度開催しています。本館は日本を代表する建築家 前川國男氏の設計であり、岡山城周辺の景観にマッチした近代建築。緑に囲まれた落ち着いた雰囲気の中で、美術品との対話をお楽しみください。

【もうイチ押し】

林原美術館では、美術品を超高精細画像でご覧いただける大画面の4Kテレビを設置しています。肉眼では見られない超拡大映像をぜひご体感ください。加えて、当館の名品230件あまりの拡大映像もいつでもご覧いただけます。

注) 展示品は、展覧会ごとに入れ替えていますので、開催中の展覧会の出品作品をご確認の上ご来館ください。



国宝 太刀 銘 吉房 鎌倉時代中期



重要文化財 洛中洛外図屏風(右隻) 江戸時代



重要文化財 紅白締切菊桐文段替唐織 桃山時代



建物外観(本館)



超高精細画像を映す4Kテレビ (林原美術館ロビー)



倉敷考古館 新館長の夢想

倉敷考古館 常務理事 館長  
香川 俊樹



倉敷考古館は、昭和25年11月に江戸時代後期の米倉を改装して開館した私立の小さな考古資料専門の博物館です。昭和24年に戦後の混乱期の中で地元経済人の発案により倉敷商工会議所や倉敷市、多くの市民、中高生の支援賛同により設立されました。昭和30、40年代に古代吉備地方中心に多くの遺跡を発掘調査して、出土した多くの考古資料を収蔵、保管、展示しています。収蔵資料の中には貴重な資料もあり、現在国指定の重要文化財が2点、県指定の重要文化財が1点あります。その外にも指定品に匹敵するような考古資料を多く保有しており、考古学専門の研究者や学生から注目されています。

考古の専門家や愛好者の方々の間での知名度は相当に高いのですが、地域住民や観光客の人たちの関心は高いとは言えず、倉敷美観地区の真ん中に立地しているにもかかわらず、年間4000人足らずの入館者と低迷しています。私立の博物館なので財政的には自力で運営資金を調達する必要が有り大変厳しい状況と言えます。そこで日々近隣の企業を回って寄付金のお願いをして歩いています。海外の著名な博物館でも館長の一番の仕事は資金集めだと聞いたことがあります、まさにそれを実感している毎日です。私は企業の出身ですが、企業経営者として、保有する「人、モノ、金」の経営リソースを有効に活用して利益を上げる事に邁進して来ました。その発想からすれば「職員と資料と建物」が考古館の全てなので、このリソースをいかに活用するか知恵を絞らなければなりません。特に館の建物は、江戸時代後期の蔵を改装した倉

敷を代表する建造物ですが、そのすばらしさが生かし切れていないと感じています。貴重な文化財、発掘資料が沢山あるのですが多くの人々に見てもらいたいとの努力が足りなかったのではと反省をしています。

そこで貴重な考古資料の裾野をもう少し広げられないかと考えています。縄文、弥生時代の土器、古墳時代の土師器・須恵器・埴輪は全て陶芸品の原点ではないかとの思いから、陶芸品を見る視点で資料を見ると、考古館が保有する資料はどれも趣があり、名もない古代の作家達の息吹が感じられます。その当時、土器作りは女性の仕事だったとも聞きます。そのような目で見ると、どの資料も女性の繊細さや、厳しい生活の中でも失われなかった「ゆとり」や「遊び心」を感じさせます。歴史的、学問的評価だけではなく、陶芸品としての視点から美術工芸品としての評価、論評がなされれば、多くの女性や陶芸品愛好家からも古代の焼き物が見直されそうな気がします。貴重な文化財資料ばかりです。より多くの人々に見ていただき、我々の先祖達が現代人のように物質的には恵まれていなくとも、高い精神性を持って生活していたことを、見て、触れて、感じていただきたいと思います。そのような場を提供できるようにこれからの館運営をしたいと考えています。考古学にとどまらず、美しい工芸品を見る視点で縄文土器や土師器、須恵器、埴輪を見ていただければと思います。是非一度倉敷考古館にお越し下さい。多くの方々のご支援をいただきながら開かれた倉敷考古館を目指したいと思います。



倉敷考古館外観



展示室

「震災／災害と博物館施設 生の声を聞く」

日時 平成29年1月27日(金) 13:00~16:30

場所 岡山県立美術館講義室

報告1 「熊本地震と美術館－未曾有の災禍から再開へ」

講師：熊本県立美術館 学芸課長 村上 哲氏

報告2 「くらしよし 倉吉の町を襲った大地震」

講師：倉吉博物館 館長 根鈴 輝雄氏

研修に参加しての感想

日本列島を震撼させた東日本大震災からすでに6年が経過した。あの震災のとき都内の某美術館にいた私は、「想定を超える」レベルの地震が起きた場合、美術館の耐震設備などほとんど用をなさないことを実感した。しかしながら、私たちミュージアムの現場で働く学芸員は、災害という脅威に否応なく向き合わなければならない。研修会のテーマである「震災／災害と博物館施設 生の声を聞く」では、平成28年に国内で発生した二つの巨大地震、熊本地震と鳥取中部地震の当事者の体験を聞く機会を得た。

熊本県立美術館・村上哲氏からは、詳細な被災状況と震災直後の美術館スタッフの対応について報告がなされた。地震発生直後の混乱した状況下において、展示品の迅速な避難が鍵であったこと、さらに美術館が被災地域の文化財避難のセンターとして機能したという点は、映写された多くの写真資料からも明らかであった。建物そのものよりも、収蔵庫や展示室内の多くの作品に被害を生じたことは、学芸員にとって痛恨の出来事であったに

ちがいない。だが、その一方で震災から学んだことが確実にその後の業務に活かされていることも報告からは伺い知ることができた。

また、鳥取中部地震について倉吉博物館・根鈴輝雄氏からの報告は、実際に私たち岡山県内のミュージアムも影響を受けただけに決して他人事ではなかった。加えて市町村の博物館では、市民の避難や震災にまつわるさまざまな業務に忙殺され、必ずしも所蔵する作品や資料への対応に留まらない、総合的な被災対応を迫られたことなど、学芸員の領域を越える業務を考えさせられた。ミュージアムという「ひと」と「もの」を繋ぐ場所において、学芸員はどちらを選択するのか。この解けそうにない問題を、無理にでも解かなければならない日が私たちにもやってくるのかもしれない。

震災に向き合うミュージアムと学芸員。今回の研修は、その具体的な様相が示された貴重な機会であった。

(井原市立田中美術館 学芸員 田中純一郎)



熊本県立美術館 村上哲氏



倉吉博物館 根鈴輝雄氏





本年度総会が5月18日(木)、岡山県立美術館において開催されました。

加盟館76館中60館(委任状25館)と新規加盟館7館、賛助会員を含む62名が参加しました。

**次 第**

■ 会長挨拶 岡山県立美術館長 守安 収

**議 事**

- (1) 新規加盟館について
- (2) 平成28年度事業報告について
- (3) 平成28年度収支決算書(案)について
  - 監査報告について
- (4) 役員改選について
- (5) 平成29年度事業計画について
- (6) 平成29年度収支予算(案)について
 

以上、すべて承認されました。
- (7) 各館提出議題
  - ・ 総社市まちかど郷土館より「交流事業を継続できないか」
- (8) その他
  - ・ 25周年記念マスキングテープの取り扱いについて
  - ・ 加盟館職員名簿の作成について

★25周年記念事業は、皆様のご協力により無事終了。今年度事業として報告書をまとめる。マスキングテープの残りは加盟館のミュージアムショップにて委託販売する。交流事業を継続するための名簿づくりと、どういったことができるか、引き続き検討する。

総会終了後、「博物館と学校をむすぶ～美濃加茂市民ミュージアムの事例から～」と題し、美濃加茂市民ミュージアム館長可児光生氏による記念講演会を行いました。

**平成29年度事業計画**

■ 研修会 第一回「作品の取り扱い、調書の取り方等」

日程：平成29年10月25日開催予定  
場所／新見美術館

第二回「テーマ未定」

日程：平成30年2月頃  
場所／未定

■ 普及広報

- ① 会報「岡山の博物館」(No.52・53 ※25周年記念事業報告を含む)の発行
- ② 加盟館・賛助会員への会員証(優待券)の発行
- ③ 無料パンフレット「おかやま博物館なび」・加盟館職員名簿の作成



**「博物館と学校をむすぶ～美濃加茂市民ミュージアムの事例から～」**

講師 可児 光生氏 (美濃加茂市民ミュージアム館長)



美濃加茂市民ミュージアムの設置準備段階から携わってこられた可児光生館長に、「博物館と学校をむすぶ～美濃加茂市民ミュージアムの事例から～」と題してご講演いただきました。

**○岐阜県博物館協会の活動**

岐阜県博物館協会は、1966年(昭和41)に創立し、現在は127館の加盟館があり、2016年度に50周年を迎えた。50周年記念事業として、「のこす」「たかめる」「ひろめる」の3部会を設置し、加盟館の現状についてアンケート調査を行い、その結果も掲載した記念誌を作成するなどの活動をした。2017年度についても、「もの」「ひと」「こと」部会を設置し、また県内5地区で自主的な集まりを企画することにより、ボトムアップで企画が立ち上がっていくことを期待している。

**○美濃加茂市民ミュージアムの概要と理念**

美濃加茂市民ミュージアムは1983年から17年間の準備期間を経て2000年10月に開館した。施設は、本館(展示、収蔵)、実習棟、民具展示館、生活体験館(養蚕民家を復元)、宿泊アリエからなり、加えて、教育センターを併設している。

当ミュージアムは、①「自然とのかかわり」、②「学校とのかかわり」、③「市民のちから」、④「交流と地域」の理念を大事にしてきた。②「学校とのかかわり」については、博物館のモノを活かした、感動と深まりのある学びができる場となり、子どもが将来にわたって幅広く知的好奇心をもちつづけられるようにというねがいをこめている。これには、ミュージアム開館の年である2000年が、「総合的な学習の時間」試行の年だったことが大きく影響した。学校側も何をすればよいか分からない時期で、博物館に行けば何かできるのではないかと考えていた。

開館後17年が経過し、この理念にどれだけ近づいているのか、様々な方法で調査しており、新たな調査・評価方法についても模索している。

**○学校利用のようす**

学校利用について、「遠足」「社会見学」ではなく、年間カリキュラムに基づいた授業の教科として捉えている。2016年度における学校の博物館年間利用者数は、市内外を含め、10,483名で、ある小学校の2016年3月卒業生は、博物館での体験活動を13回経験しており、

「特別な活動」とはなっていないと考えている。

2016年度の内容は、社会科72回(「古い道具と昔のくらし」小3、「縄文のむらから古墳のくにへ」小6など)、生活科39回(「つくろう あそぼう」小1など)、理科20回(「大地のつくりと変化」小6など)、国語科16回(「たぬきの糸車」小1など)、図工13回(「粘土でぎゅっぼん」小2など)、総合12回(「地域を知る」中1、「地域の年中行事」中2)となっている。子どもたちには、体験を通して、それぞれのイメージを膨らませてほしいと考えており、そのサポートをしている。博物館特有の自由な学びの時間をつくりたい。

教員との事前打ち合わせは、代表者だけではなく全員に参加してもらい、必ず face to face で行っている。当日は、教員、学芸員だけではなく、学習係や、無償ボランティアの方々にも関わってもらっている。

**○学校利用の課題**

学校ではできない学習プログラムを実践し、システムとしてある程度軌道にのってはいけるものの、綿密に組まれたプログラムが、子どもたちの「豊かな」体験になっているのか、ねらいから少し離れた「隠れたカリキュラム」も時には大事ではないのか、という疑問も抱えている。

評価することは難しいが、学習プログラムの改善に役立てるためにも、また、設置者や地域社会に対する説明のためにも、評価・測定は有効な「手立て」であると考えている。

**○調査の手法と対象**

博物館のモノを活かした、感動と深まりのある学びができる場となっているのか調査するために、学習時の子どもたちのつぶやきを拾い、記録し、卒業時アンケートを行っている。教員に対しては、3学期末に「学校活用改善シート」を記入してもらっている。

子どもが将来にわたって幅広く知的好奇心をもちつづけることができるのかどうかに関しては、自発的活動の様子をみる事以外に、卒業時アンケートと、成人式時アンケートを行っている。

卒業時アンケートの結果からは、個人的な行動の広がり、社会や地域に対する意識の芽生えが見いだせるのではないかと考えている。また、母親になった段階での調査も検討している。

**○全体の課題**

アンケートの技術的課題として、子どもの回答をどこまで信頼するかということ、また、成人式アンケートの手法を研究する必要があることなどがある。

かつて学校で博物館を利用した20代の市民へインタビューを行ったところ、小学校時代の体験の記憶が強すぎるにより、博物館に対して楽しさと心地よい場としてのイメージがなく、「学習」施設としての印象が植えつけられていることに衝撃をうけた。このことから、「団体学習体験」に縛られない、「自由で多様な個人や家族での体験」も必要ではないかと考えている。

(編集 津山郷土博物館 東万里子)



# 新規加盟館紹介

平成29年度から新たに7つの施設が加盟しました。岡山県博物館協議会加盟館総数は83館となりました。

## ①岡山映像ライブラリーセンター



山陽放送が昭和33年(1958)にテレビ放送を開始して以来のニュース映像及び番組の一部に加え、センターに持ち込まれた戦前の一般家庭・企業などのフィルム映像をアーカイブして一般に公開する映像の博物館。

【センター長】内田 章文  
【所在地】〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-7  
【TEL】086-225-8622

## ②津山まなびの鉄道館



昭和11年(1936)に建設された旧津山扇形機関車庫は、車両の向きを変える転車台とともに平成21年に経済産業省の近代化産業遺産に認定された施設。1両のみ製造されたDE50形ディーゼル機関車など扇形機関車庫内には13の車両を保存展示。平成18年から平成26年まで扇形機関車庫の限定公開を行っていたが、平成28年4月に津山まなびの鉄道館としてオープン。

【館長】竹内 佑宣  
【所在地】〒708-0882 津山市大谷  
【TEL】0868-35-3343

## ③美作市作東文化芸術センター美術館



世界的に著名なフランス人画家レイモン・ペイネの水彩画、油絵、版画など140点を所蔵。季節に合わせて展示替えを年数回実施。また、「愛の美術展」と称して公募型コンクールを年1回開催。そのほか貸館事業として、市内の絵画や書の愛好家による展示会を行っている。

【館長】宮前 聖(社会教育課長)  
【所在地】〒709-4234 美作市江見945  
【TEL】0868-75-1117

## ④総社吉備路文化館



総社市と総社市文化振興財団などが所蔵する美術作品を収蔵。2階の展示室では随時企画展を開催し、それらを広く市民に公開している。高木聖鶴作品展示室では総社市出身で文化勲章を受章した書家高木聖鶴氏の作品を随時展示替えを行いながら公開している。

【館長】永田 忠幸  
【所在地】〒719-1123 総社市上林1252  
【TEL】0866-93-2219

## ⑤岡山空襲展示室



1945年(昭和20)6月29日、岡山市街地はアメリカ軍による大規模な空襲を受けた。終戦から70年以上が経過し、薄れつつある岡山空襲の記憶を風化させず、後世に伝えていくために、岡山シティミュージアムの5階フロアに常設の「岡山空襲展示室」を設け、岡山空襲に関する資料の収集、調査、展示及び関連する各種事業を実施している。

【館長】岡山市長(岡山市保健福祉局福祉課)  
【所在地】〒700-0024 岡山市北区駅元町15-1  
【TEL】086-253-7070

## ⑥S-HOUSEミュージアム



SANAA(妹島和世+西沢立衛)による最初の木造個人住宅を美術館に改修。現代アーティストの作品を通して同時代を共有することを目的とし、固定の作家が新たな展示を更新しつづける前向きな形態で運営。いままでにない、新たな展示形態と運営を提案する前方視的美術館(プロスペクティブ・ミュージアム)です。

【館長】花房 香  
【所在地】〒702-8024 岡山市南区浦安南町445-8  
【TEL】090-7374-1096(携帯電話)

## ⑦おかでんミュージアム+水戸岡鋭治デザイン



岡山電気軌道旧本社社屋等をリノベーションし、2016年12月21日に開館。JR九州「ななつぼし」や「MOMO」など多くの鉄道車両のデザインを手がける工業デザイナー・水戸岡鋭治氏が設計を担当。岡山電気軌道関連資料の展示のほか、水戸岡氏のポスター作品や映像をまとめた資料室、テレビアニメ「チャギントン」を上映するシアタールーム、プラレールや絵本を設置したキッズスペースも併設。

【館長】岡山電気軌道株式会社 社長 小嶋 光信  
【所在地】〒703-8281 岡山市中区東山2-33-3  
【TEL】086-272-1811

### ◇賛助会員(館・会社名)

- |                |                  |                    |                  |
|----------------|------------------|--------------------|------------------|
| ■(株)RSKプロビジョン  | ■岡山大鵬薬品(株)       | ■シャープタカヤ電子工業(株)    | ■西尾総合印刷(株)       |
| ■朝日新聞社岡山総局     | ■岡山放送(株)         | ■(株)ストライプインターナショナル | ■日本通運(株)岡山支店     |
| ■(株)イーオン       | ■(株)岡山臨港         | ■(株)成通             | ■日本放送協会岡山放送局     |
| ■(株)岩井工業所      | ■鹿島建物総合管理(株)中国支社 | ■タカヤ(株)            | ■蜂谷工業(株)         |
| ■医療法人 えんさこ医院   | ■菅公学生服(株)        | ■(株)田中商会           | ■(株)林原           |
| ■(株)大手饅頭伊部屋    | ■菅田株式会社          | ■(株)中国銀行           | ■(株)フジワラテクノアート   |
| ■(株)大本組        | ■(株)橘香堂          | ■中国建設工業(株)         | ■フルハーフ岡山(株)      |
| ■岡崎共同(株)       | ■(株)キャリアプランニング   | ■東洋砕石工業(株)         | ■(株)ベネッセホールディングス |
| ■岡山ガス(株)       | ■倉敷木材(株)         | ■(株)トマト銀行          | ■(株)MESファシリティーズ  |
| ■(公財)岡山県郷土文化財団 | ■(株)廣榮堂          | ■(株)トミヤコーポレーション    | ■(株)山田養蜂場本社      |
| ■(公財)岡山県産業振興財団 | ■坂本工業(株)         | ■友野印刷(株)           | ■両備ホールディングス(株)   |
| ■岡山県農業協同組合中央会  | ■(株)山陽新聞社        | ■トヨタカラー岡山(株)       |                  |
| ■岡山県民共済生活協同組合  | ■山陽放送(株)         | ■(株)トンボ            |                  |
| ■岡山市農業協同組合     | ■(株)サンラヴィアン      | ■(株)ナイカイアーキット      |                  |